

H 3 1 . 2 . 7 (木)

平成30年度 第3回開かれた学校づくり委員会より

参加者  
<委員>

神崎町教育委員会教育長	椿 勇 様
神崎町立米沢小学校校長	小林正樹 様
香取市福祉健康部	
社会福祉課 課長	坂本浩一 様
香取学園龍ヶ谷寮 寮主任	作佐部朋子 様
本校 P T A 会長	根本久美子 様
本校校長	岩瀬広幸

<事務局>

山本昌宏 (教頭)	鈴木正志 (事務長)	飯田佳正 (教務主任)
高野栄子 (小主事)	高木英雄 (中主事)	藤原秀訓 (高主事)
勝田真至 (特別支援教育コーディネーター)		
浅沼由加里 (研究主任)	谷 康仁 (進路指導主任)	

**委員より学校評価に係る御提言等**

- ・働き方改革が話題に上がっている昨今、どこの学校でも行事が多いという感覚は持っていると思う。教育課程をうまくやりくりして子供や職員の負担を減らす、そして親や地域の方々に満足してもらえるような組織マネジメントが大事となってくる。
- ・「挨拶」に関しては、たかが挨拶、されど挨拶で、例えばコンビニやガソリンスタンドなどで挨拶ができなければ客足も減ってくる。心してみんなで取り組むべき内容である。
- ・進路等に関しては、講演の行政のサービスを利用する等、連携をとっていききたいので是非何かあれば申し出てほしい。31年度4月から子育て時代相談支援センターを立ち上げる予定。保健師、保育士を設ける。連携の核となるとよい。
- ・いじめアンケートを実施した後、そのアンケートはどうしているのか  
→保管している。必要に応じて見返して利用している。
- ・夏のセミナーは就労という狭い範囲だけでなく、生活を加えて対象者が広がったと思う。しかし、保護者が参加少なく残念である。
- ・面談での対応やいじめに関することも対応が素早く安心感がある。
- ・交流に関しては、職員同士も交流できる時間を作ってもいいのではないか。人事的な交流をもっと深めてみてはどうか。
- ・地域の熟年の方々を取り込んで学校内での役割を作ると、熟年の方々が生き生きできるののでそういった取り組みをしてみてもどうか。先生方だけでなく地域、P T A、行政など、みんなで取り組んでいけるとよい。